

災害時に備えるペットの飼い方

自然災害は、いつ起こるかわかりません。いざという時、ペットを守れるのは飼い主だけです。まずは飼い主が無事であること、そして避難する場合にはペットと一緒に避難所に避難すること（同行避難）が基本です。

避難所では、避難所ごとにペットの飼育ルールが決められます。ともに安全に避難でき、周りの人へ迷惑をかけず、安心して過ごすためには、日頃の心構えと備えをしておきましょう。

飼い主が責任を持ってペットを飼育しましょう。

他の飼育者と協力することで負担が軽減できます。

★普段からの健康管理としつけ

慣れない避難所での大勢の人や他の動物との生活に関しては、ペットに大きなストレスを与えてしまいます。

避難所でトラブルが生じないように他人に友好的に接することができるようしつけや、ブラッシング・予防注射・ケージやキャリーバックに慣らすなどの健康管理などに普段から準備しましょう。

★所有者明示をしましょう！

災害時には、ペットとはぐれてしまう場合があるため、保護された場合に飼い主に戻れるように所有者明示をしておきましょう。

例：マイクロチップの装置・連絡先を書いた札（鳥は足環など）・鑑札や注射済票（犬の場合）・首輪など

★避難場所を確認しよう！

(1) 避難所では規模・設備・構造などによっては、すべてを受け入れることは容易ではないかもしれませんが、原則として市民の方々の安全が確保された上で、トラブルがないようグラウンドや避難所の一部を利用することを想定しております。すみやかに避難できるように地域の避難所に関して把握するようにしましょう。

(2) 避難先での備えに関しては、基本的には飼い主の方が用意します。

最低でも次のものは普段から用意しましょう。

- ・療法食、薬（必要なペットには必ず用意）
- ・少なくとも5日分（できれば7日以上）のフードと水、食器
- ・ケージやキャリーバックや予備用の首輪、リード（伸びないもの）
- ・トイレ用具
- ・写真（行方不明になったときなどに役立ちます）

以上のようなものを準備している避難用品と一緒に保管しましょう。